



◆ 令和3年度がスタート！

◆ 新任式・始業式・入学式 ◆



4月8日、本校に着任された11名の先生方を迎える新任式が行われました。代表して国語科の中本裕太先生から「耐久

生のあいさつや笑顔が非常に印象的だった」と挨拶を頂き、生徒代表の鶴岡亜美さんが歓迎の言葉として「私たちは、耐久高校の歴史と伝統に恥じないように、人との接し方や挨拶など、当たり前のことを当たり前でできる人であるよう心がけて、勉学に励んでいます」と本校生徒の気質を述べました。その後、始業式が行われ、新学期がスタートしました。

午後の入学式では、大西弘之校長が、まず、コロナ禍の中、新入生を迎える式典を無事に行えたことへの感謝と喜びを述べた。続いて本校は濱口梧陵翁らが幕末の混乱期を乗り越える人材育成を目指して開いた稽古場「耐久社」に由来する歴史と伝統に溢れる学校であり、この名前には学舎がいつまでも永く続き「自学自労」の精神に満ち溢れた人材が育ちますよという梧陵翁らの熱い想いが込められていると、本校で学び始める新1年生に語りかけました。



◆ 対面式 ～在校生が新入生を歓迎～ ◆

4月9日、コロナ感染症対策のため、対面式を中庭で行いました。新入生は中庭に、在校生は中庭の周囲や校舎ベランダに集まり、体育館とはひと味違った温かい雰囲気でした。はじめに、新入生代表として1年1組山本結愛さんが、在校生代表として2年5組岩崎梨好さんが挨拶をしました。その後、合唱部が歓迎の歌を披露してくれたので、場も和み、新入生を歓迎する温かい雰囲気ができました。続いて、合唱部の校歌披露の前に生徒会の鶴岡亜美さんと、岩崎梨好さんが、校歌の歌詞の紹介と意味の解説をしてくれました。



先輩の歌う校歌を聴く新

入生にとって、ただ聴くのではなく校歌の意味を知ること、歴史ある耐久高校を肌で感じることができる良い機会になったのではと考えています。最後に、先輩から、高校生活を送る中で、自分が気をつけていることなど、新入生に向けてのアドバイスがありました。コロナ禍の中でしたが、さわやかな天候のもとで、耐久高校らしい温かい式が行えたことに感謝しています。



◆ 東京医療保健大学和歌山看護学部と 教育連携協定を締結◆

～充実した内容で連携事業がスタート～

東京医療保健大学和歌山看護学部との間で、高大連携を進め、相互の人的、知的資源の交流と活用をはかり、相互の教育活動の発展をめざすため、教育連携協定の締結が行われました。

3月8日、東京医療保健大学和歌山看護学部から八島妙子学部長が来校し、大西弘之校長と協定書を取り交わしました。本校には、例年30名程度の看護系進学希望者がおり、これまでも同大学を招いての校内での説明会や出前授業、またオープンキャンパスや体験学習への参加など、単発ではありましたが連携、交流を進めていました。

今年度から、協定締結を機に、これまでの取組のシステム化をはかり、看護系進学希望者の適性を見る機会の保障や看護大学での学びの一部を本校の教育内容に組み込むなど、本校の教育活動の充実につけていきたいと考えています。

